

BPT(バイオマスプロジェクトチーム)だより No.62

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kankyou-kendo/kankyou/junkan/biomass/index.html>

平成24年12月26日

バイオマスプロジェクトチーム
(環境生活部資源循環推進課)

1. トピックス

○第1回エコフィード研修会（エコフィードコーディネーター設置事業）

10月29日、県畜産協会主催の第1回目の研修会が千葉市生涯学習センターにおいて、開催されました。講演は2本で、独立行政法人農畜産業振興機構の小林調査役から、米国におけるトウモロコシの生育状況調査を踏まえた近年の飼料価格の高騰をテーマにした飼料事情、また有限会社環境テクシスの高橋社長からは、食品残さの飼料化が飼料価格の高騰に対応する一つの方法であるとして、エコフィードについて具体的な事例や各種ノウハウを盛り込んだ、大変実践的なお話をいただきました。



参加者は配合飼料のメーカーやエコフィード製造業者・利用者等約60名で、エコフィード利用の推進について、それぞれの立場において大変有意義な研修会となりました。

○森林系バイオマス利活用研修会

11月9日、袖ケ浦市の千葉県緑化推進委員会事務所構内において、「県民参加によるみどりの再生事業実行委員会」と連携し、3.11後のエネルギー源の多様化、自立分散型エネルギーの普及に着目した研修会を開催し、森林系バイオマスの現状等の座学の後、熱利用実習として薪を使った炊飯体験、ペール缶を利用したロケットストーブの製作を行いました。



千葉県
米消費拡大推進協
議会から

御提供いただいた県産の新米を大釜で炊きましたが、わずかな薪で10kgのお米が20分弱で炊きあがると、参加者からは驚きの声と、県産米の美味しさを称賛する声が聞かれました。ロケットストーブも、30分足らずで組みあがり、出来たてのストーブで沸かしたお湯でお茶を飲む等、楽しさだけでなく、バイオマス資源の熱利用についての理解が深まる効果的な研修会となりました。



○平成24年度木質バイオマス供給体制整備事業



【竹をまとめて引上げるキャップ】

決のため、県では平成23年度から実証事業を行っ



【修羅 iido】

の装置を作り、竹を斜面下部へ落とすといった2種類の方法について実証試験を行いました。

いずれの方法も特別な資格は不要で、里山団体等でも使える安全な方法です。実証試験の検討結果は年明けに開催する「ちば里山センター」の研修会でお知らせする予定です。

森林内の枝や伐採後の残材などの「森林資源」は、山からの搬出に手間と費用がかかることから採算が合わず、ほとんど利用されていません。特に、山の急斜面から搬出する場合は、簡便で安価な方法を見つけることが課題となっています。

この課題解決のため、県では平成23年度から実証事業を行っています。

本年度は市原市を対

象として、「NPO 法人ちば里山センター」と連携し、市及び「米沢の森を考える会」の協力を得て、11月27日(火)と12月10～17日にかけて市内の放置竹林2か所で、ポータブルウインチで伐採竹の引き上げと、「修羅 iido」と呼ばれるポリカーボネートの波板で滑り台状



【ポータブルウインチ】

2. 国との連携

○バイオマス・ニッポン総合戦略関東地域連絡協議会第4回幹事会

11月21日に関東農政局において幹事会が開催され、その中で、バイオマスは廃棄物系が多く、環境部局の協力が欠かせないこと、広く・薄く存在するため、複数市町村が地域ぐるみで取り組むことが、利活用を進める上で必要であることが改めて示されました。また、会議ではバイオディーゼル燃料(B5燃料：軽油に5%混合して利用)の普及促進を図るためには、色々な規制緩和が必要であることも示され、今後の国の動向が注目されます。

3. 市町村等との連携

○エコフェアいちほら

6月16日、市原市民会館において開催された「エコフェアいちほら」に木質プラスチック製品を中心に出席しました。当日は雨にも関わらず、大勢の来場者がブースを訪れ、多くの市民の方々に「バイオマス」の意味と意義を説明させていただきました。初めて「バイオマス」という言葉を聞いたという市民も多く、啓発活動の必要性を改めて実感しました。

○いすみエコフェスタ

10月14日、いすみ市岬公民館及び運動場において、「いすみエコフェスタ」が開催され、木質プラスチック連絡協議会として事業者とともに参加しました。時折、強い雨が降る寒い一日でしたが、多くの方にブースを覗いていただき、木質プラスチックの良さを知っていただく良い機会となりました。来年は晴れることを期待しましょう！



4. 関連業務

○エコフィード利用畜産物試食会

5月28日、船橋グランドホテルにおいて、揚げ粕で飼養した豚肉の試食会が開催されました。試験は対象区と揚げ粕5%、10%添加区で、しゃぶしゃぶとして試食を行いました。肉質や味についてはいずれも大きな差は見られなかったものの、対象区(普通飼料)のものはドロップ※が多く、消費者が見た目で選ぶとすれば、揚げ粕5%区が選ばれると思われました。また、5%区が最も発育が良く、今後も添加量の最適化を検討する試験を継続して実施する予定です。

※ドロップ：解凍時に肉から垂れる肉汁。小売店に並ぶ際、見た目が悪いことから消費者に敬遠される傾向があります。

○アグリビジネス創出フェア

11月14～16日の3日間、東京ビッグサイトにおいて、畜産たい肥燃料のJ-VER販売促進並びに木質・木炭プラスチックの新規需要開拓を目的として出展しました。

3日間で延べ約300名の方がブースを訪れ、熱心に説明を聞いて行かれました。また、会場ではたい肥燃料についてのセミナーも実施され、多くの方々に県と太平洋セメント(株)との共同の取り組みに耳を傾けていただき、盛況のうちに終わることが出来ました。フェア終了後、数社から直接問合せの連絡があり、効果のあった展示会となりました。

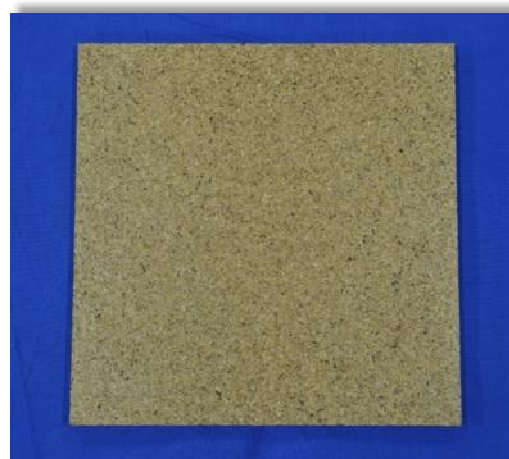


○産業交流展について（千葉県産業支援技術研究所開発の落花生パーティクルボード）

千葉県産業支援技術研究所(産技研)は、中小企業の支援を柱とした研究所で、木質プラスチックの製品開発及び性能評価などにも携わってきました。

11月20日からの3日間、東京ビッグサイトで開催された産業交流展で、産技研が落花生殻パーティクルボードの試作品を出品しました。

【試作品の大きさ 30×30×1cm】





落花生は本県の特産品であることから、産技研では非食用部の殻の利活用を検討してきましたが、この度、実用的な試作品が出来上がりました。外観は光沢のあるコルクのようでありながら、強固で、木の暖かい質感も併せ持ち、色々な場面で活用できる可能性を持った素材です。既に多くの問い合わせが来ているようで、今後の展開に期待が持てそうです。

◀【表面の拡大写真】

5. 普及啓発活動

○木質プラスチック普及活動の実施（一部記事と重複します）

下記イベントにおいて、千葉県産木質プラスチック製品の普及等バイオマスの啓発活動を行いました。

- ・7月24日(火) : バイオマス啓発講習会(千葉市、四季こよみ、約40名参加)
- ・9月17日(火) : エコメッセ2012(幕張メッセ、来客数約200以上)
- ・10月14日(日) : いすみエコフェスタ(いすみ市、着色体験・模型工作、来場者約50名)
- ・10月27日(土) : 農林総合研究センター公開デー(千葉市、デコイ着色体験約200名参加)
- ・11月9日(金) : 森林系バイオマス利活用研修会(袖ヶ浦市、受講者約50名)
- ・11月14～16日 : アグリビジネス創出フェア(東京ビッグサイト、木質プラスチック素材展示、当県ブースへの来場者約300名)



【農林総合研究センター公開デーでの出展の様子】